

第6学年 国語科学習指導案

平成16年10月5日(火)第1校時

6年1組(男子13名,女子14名,計27名)

指導者 関 慶 子

1 単元名 生き方や考え方を読み取ろう

教材名 「海の命」 立松 和平

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、これまで「読むこと」の学習として、「森へ」で筆者の心の動きと場面の状況を叙述に即して読み、静かで広大なアラスカの自然に想像を広げる学習をした。

また、『作品と出会う、作者と出会う』では、「やまなし」でかのにの兄弟の心情や谷川の情景の美しさを叙述に即して読み深め、主題に迫る学習をしてきた。さらに「イーハトーヴの夢」で宮沢賢治の生き方や考え方を学び、賢治の他の作品に読みを広げる学習を行った。そして、「展示コーナーを作ろう」では、賢治の作品と賢治の生き方を結びつけたパンフレットを作り紹介する学習を行ってきた。

児童は、これらの学習を通して、登場人物の心情や場面の描写を文や言葉に振り返り読み取ることができるようになってきている。また、叙述を味わいながら読むことや、作品の主題や作者の生き方に触れながら読み深め、自分の考えを広めたり深めたりすることを楽しむようになってきている。

(2) 単元のあらまし

本単元は、以下の領域を主たる指導事項とし構成された単元である。

C 読むこと

ウ、登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

本単元の前の学習においては、「読むこと」においては、一学期の「作品と出会う、作者と出会う」という単元を通して「イ、目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること」「ウ、登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」を指導してきた。

本単元は、登場人物の生き方や考え方をその行動や言動から読み取り、自分と重ね合わせたり比べながら、自分の生き方を振り返り考えを広げることねらいとしている。

本単元「海の命」は、太一と太一を取りまく自然と人間のふれあいを通して、自然と人間の共生を学び、人間的な成長を遂げる太一の姿が描かれている。村一番の漁師でありながら決してそれを誇ることもなかった謙虚な父の姿を見ながら、太一もまた父と同じ道を歩もうと夢見る。父の死後、漁師として長年の経験をもつ与吉いさに弟子入りし、一人前の漁師に成長した太一は、父を破った瀬の主クエに出会う。父の命を奪ったクエを破ることを目標に生きてきた太一が、クエの悠然とした姿に自分の生き方を問われる。そして、クエに父を見、海の命を感じ、もりを打たなかったところに太一の成長があると思える。

父・母・与吉いさ・クエとの交流を通して成長をしていく太一の姿は、周囲の人間の中での「自分」という存在を見つめはじめている時期にある児童にとって、興味を抱きながら読み進められる作品である。児童は、成長する太一の姿に自分自身を重ね、驚いたり共感したり反発したりしながら自分の思いや考えをもって読むことができるであろう。そして、「海の命」について、この物語に一貫して流れている「人間と自然との共存」について、それぞれにその意味を考えることができるであろう。

(3) 指導にあたって

「生き方や考え方」そして「命」についてより深く考えることができるように、主題につながる「海の命」の意味するところを大切に読み深めさせたい。

そこで、はじめに、題名「海の命」について話し合い児童の考えを膨らませておくことで「海の命」を追求し読み深めていこうとする意識をもたせる。

読み取りは、場面ごとに学習を展開するのではなく、読みの視点を決め自分が選んだ方法で作品を読んでいく活動とする。読むことを苦手としている子どもでも、自分の力で読み深めていくことができるように、個々の読み取りに入る前に音読を繰り返かし、登場人物と場面構成をおさえる活動をする。作品の大まかな内容を把握した上で、「人間関係図」「エピソード表」「心情曲線」の中から学習の方法を選択し、「太一の成長の様子」と「海の命」に関する文の言葉を探っていくようにする。

児童の多様な読みをグループや全体の場で、すり合わせることでさらに自分の読みを深く振り返らせるとともに、「命」に関わるほかの作品を読み感想を交流することで、自分の生き方や考え方を見つめ直すことへつなげていく。

	三つの手立て		具体的な取り組み
1	学習への意欲と見通しをもたせるための工夫	意欲を高める指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・作者「立松和平」に関する他の作品や二戸を訪れたときの日記を紹介しながら、興味関心を高める。 ・読みの視点を明確にし、個々に読み取りの方法を選択させることで、主体的に読み深めの学習ができるようにする。
		既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・心情曲線・エピソード表・人間関係図の書き方を振り返り、その中から選択して取り組む。
2	学び合いを充実させるための工夫	学習形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習の仕方を確認するため、友達の学習の仕方のよさを次の一人学びで生かすめに、読み取りの途中に小グループでの交流の時間を設ける。 ・同じ視点でのグループ学習とジグソーグ学習を設けることで、深まった読みにせまる。 ・全体での学び合いの場で、各グループの読み取りを交流し、考えを深める。
		よりよい考えを練り上げていくための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想や一人学びでの、練り上げに生かせる読み取りや疑問等をチェックしておき、意図的に指名をする。 ・予想する児童の読み取りに対しての練り上げのための発問や切りかえしの発問を準備しておく。
3	振り返りの工夫	自己評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人学び」「学び合い」「まとめ」の3つの段階で、自分の考えがもてたか振り返る。また、「うれしかったこと」「感動したこと」「自分の生き方」「これからの学習について」についてもふれながら、学習の感想を書きまとめる。

3 単元の目標

登場人物の言葉や行動から、生き方や考え方を読み取り、「命」について考える。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・文章を読み、人間の生き方や考え方について自分の考えを深めようとしている。	・登場人物の生き方や考え方をその言葉や行動から読み取っている。	・情景描写の言葉が、人物の心情を表現していることをとらえている。

5 単元の指導計画(指導時数：8時間)

時	小単元	学習活動	評価規準
1 2	「海の命」という題名について考える。	・「海の命」という題名について考え、範読を聞く。 ・音読をし、初発の感想を書く。	(関)題名について自分なりのイメージをもちながら全文を通読し、感動や疑問をノートに書いている。 (発言・ノート)
3 4 5 6 (本時)	読みの視点を持ち、作品を読み深める。	・作品のあらましを読み取り、読み深めていくための視点をもつ。 ・既習の学習の仕方を確認し、それぞれの方法で、作品を読み進め、グループで交流する。 ・さらに、各自で作品を読み深め、グループで交流する。 ・読み取ったことを交流し、太一の海に対する考え方をまとめる。	(読)登場人物と場面構成をつかんでいる。(ノート) (読)言葉や行動・情景描写から登場人物の生き方や考え方を読み取っている。(ノート) (読)太一の海に対する考えをまとめている。(ノート・発言)
7 8	「命」についての作品を読み、自分の考えを深める。	・「山のいのち」を読み、「山の命」とは何かについて話し合う。 ・「命」についての他の作品を読んだ感想を交流し、「命」について自分の考えをまとめる。	(読)「山の命」の表すものについての自分なりの考えを書いている。 (読)自分の体験や経験からの「命」と読書を通しての考えをまとめ、「命」について書いている。 (ノート)

6 本時の指導

(1) ねらい

言葉や行動から、太一の海に対する考え方を読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	教師の指導・支援	評価 【手立ての評価】
つかむ 3分	1 前時の学習内容を想起する。 2 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 一人学びの視点「人物の関係」「エピソード」「心情の変化」を振り返ることで、本時の意欲へとつなげる。 	
	太一の海に対する考えをまとめよう。		
見通す 2分	3 学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 「関係図」「エピソード表」「心情曲線」でのジグソー学習の中で、互いの読み取りを交流し、太一の海に対する考えをまとめることを確認する。 	
深める 32分	4 自分の読み取りを確認する。 (一人学び 3分) (グループでの学び合い 10分) (全体での学び合い 19分) <太一の海に対する考えに迫る読みとして着目したい文> <ul style="list-style-type: none"> 「海のめぐみだからなあ。」 「魚を海に自然に遊ばせたくなるとる」 「千びきに一びきでいいんだ。...ずっとこの海で生きていけるよ。」 「海に帰りましたか、... ぼくも海で生きられます。」 「大魚は海の命だと思えた」 「この魚をとらなければ...泣きそうになりながらそう思う。」 「太一は生がいだれにも話さなかった。」 	<ul style="list-style-type: none"> ジグソー学習での交流に自信のなさそうな児童には、同じ視点で読み深めた友達と一緒に、前時の交流を振り返るように声をかける。 互いの読みを交流しあった後、太一の海に対する考えをまとめるようにする。 友達の考えに対してどう思うかについても聞くように声をかける。 グループごとに課題に対する答えを発表した後、叙述に即しながらその理由を話し合っていくことを確認する。 児童の読み取りを絡ませながら太一の海に対する考えをまとめていく。 太一の「夢」を確認することで、父への憧れや、巨大なクエの様子をおさえる。 クライマックスであるクエとの戦いで太一の心が大きく変わった場面に焦点を当てて話し合いを深める。 	【グループや全体での学び合いは各自の読みを深めるために有効だったか。】 【初発の感想や一人学びでの練り上げに生かせる読み取りや疑問等を使った意図的な指名は有効に働いたか。】 【教師の発問や切り返しは、練り上げに適していたか。】

ま と め る 4 分	6 学習のまとめをする。 まとめを書く ・ 発表(1名)	・ 学び合いによって深まった読み取り を元に、自分のなりの課題の答えをま とめるように指示をする。	(読)太一の生き方や考え 方を「海のめぐみ」「海 の命」「千びきに 一び き」の言葉にふれなが ら書くことができる。 (ノート)
振 り 返 る 4 分	7 本時の学習を振り返る。 まとめの音読をする。 自己評価	・ 太一の海への思いが表れるように音 読したことに賞賛を与えて励ます。 ・ ノートに一人学び・学び合い・まとめ の3つの段階で自分の学びについて 反省させる。また、友達から学んだこ とや分かったことへの喜びなども書 くように声をかける。	【感想交流は、学びの共 有や今後の学習への意 欲付けに効果的だった か。】

(3) 具体の評価規準と指導の手立て

観点	A	B	Bに至らせるための手立て
読 む 能 力	海を守っていこうとする太 一の生き方や考え方を「人間 と自然との共生」に触れなが ら書きまとめている。(ノート)	海を守っていこうとする太一の 生き方・考え方を「海のめぐみ」「海 の命」「千びきに一びき」の言葉に ふれながら書いている。(ノート)	板書している言葉を使いなが ら、太一の海に対する考えを書き まとめさせるように声掛けをす る。

板書計画

海の命

立松和平 作

太一の海に対する考えをまとめよう。

太一

魚は海の恵み

「千びぎ」千びぎつれば、ずっと生きていける場所
大切なところ

自由な世界

興奮しながら冷静
こんな感情になったのは初めて
泣きそうになる

「お父、ここにおられたのですか」

与吉じいさ

「千びぎ」「千びぎ」
「千びぎ」「千びぎをつれば
ずっとこのつみでいきられる」
「海に帰りましたか」

夢

村一番のもぐり漁師
お父の瀬にもぐる

瀬の主

クエ

父をやぶった魚
岩のよう
まほろしの魚
百五十キロはゆつじこえる

動こうとしない
穏やかな目

海を大切にする
海を守る
海とともに生きる